

科目名 生物生産学特別総合実験（10単位）

担当者氏名 小栗 秀、横濱 道成、増子 孝義、吉田 穂積、橋詰 良一、亀山 祐一、寺澤 和彦

◆学習・教育目標

修士論文作成のために実施する専門実験をととして、論理的思考能力、分析能力、コミュニケーション能力等を身につけさせる。さらに植物資源生産学特論実験(一)(二)、動物資源生産学特論実験(一)(二)、プレゼンテーション技術演習(一)(二)、学術論文作成法(一)(二)、特別認定(一)~(四)を通じて実験分析、調査遂行能力を養い、また学会発表、論文投稿等を実践することにより、研究成果をまとめる技術を高める。これらの実験・演習により、研究テーマに対する計画、実行、まとめの能力を養い、修士論文を完成させる。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

回数	テ ー マ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
		<p>○（橋詰 良一） 発生工学を基礎に、哺乳動物の胚や鳥類の卵を用いて、動物の生殖および発生・発育のメカニズムを探り、また、その技術と知識を応用して生態系の保護、保全についての研究指導を行う。</p> <p>○（横濱 道成） 家畜にとどまらず野生動物も含めた多様な形質の特性を遺伝子レベルで把握し、フィールド調査を中心とした生態学とDNA解析を軸とした遺伝学をテーマに研究指導する。</p> <p>○（増子 孝義） 北海道の環境を生かした研究教育として、時給飼料の高品質化、新規動物生産技術の確立、野生動物の生態調査についての研究指導を行う。</p> <p>○（吉田 穂積） 寒冷地の作物生産の諸問題について、基礎レベルから応用レベルまで、作物学、土壌学、植物病理学などの関連学問領域を統合した研究指導を行う。</p> <p>○（小栗 秀） 植物の分子生理学的研究を基礎に、バイオテクノロジーを駆使した有用植物資源の作出を目指し、暑さ、乾燥・塩集積などといった環境ストレスに対応する植物のメカニズムの解明、地球温暖化に対処する研究等を指導する。</p> <p>○（亀山 祐一） 実験動物における発生工学と分子生物学を組み合わせた研究領域について指導する。また、新規モデル動物の開発に関わる研究についても指導する。</p> <p>○（寺澤 和彦） 植物性生態学や森林生態学を基盤として、森林・湿原などの植物群落の生態や物質循環機能の解明とその保全・利用に関する教育指導を行う。</p>	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

◆その他受講上の注意事項
